

令和5年度 第1回 介護・医療連携推進会議議事録

●日時：令和5年4月24日(月) 17:30 ～ 18:40

●場所：デイケアセンター春海

●出席者：甲斐市職員、榎東区区长、榎東区民生委員、あすか在宅クリニック、山梨県立大学、利用者さま家族、当法人職員、あさがお職員 (計 18名)

| | |
|------|--|
| 議事事項 | <p>1.) 現状報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ①利用者数について ②訪問件数について ③R4年度の相談等 ④事業所内の取り組みについて <p>2.) 自己評価の説明と質疑応答</p> <p>3.) その他</p> |
| 議事内容 | <p>定期巡回サービスは当法人において初めての事業で、訪問介護との違いや、システム運用に職員も悩むことが多かった。その中でも利用者様やご家族の、24時間の生活を支えるにはどうすれば良いか、あさがお定期巡回では「その人らしさ」を大切にサービス提供を心がけている。</p> <p>議事 1.) 現状報告</p> <p>① 利用者数について</p> <p>開所時は、同法人の訪問介護の利用者4名を定期巡回サービスに移行された。4人中3人は1人暮らしの方で、主に食事提供を中心とした訪問内容。生活リズムをご本人とご家族、ケアマネジャーに確認した上で訪問時間を設定した。</p> <p>その後利用者数は、7人～11人の間で推移している。要介護1,2の軽度の利用者様は、調理や買い物支援が中心で独居の方が多い。また、要介護3～5と介護度が高い方のサービス内容としては、身体介護で、特に排泄と清潔支援に対してのケア内容が多い。11月からは痰の吸引が必要な利用者の対応も行った。</p> <p>12月には2週間程度と短期間であったが、ターミナル期の方を自宅で看取る対応を行った。</p> <p>② 訪問件数について</p> <p>利用者数と比例して、訪問回数も増減している。特に12月、1月には、重度の方や病状の変化があった利用者が訪問内容を変更したことで訪問回数の増加になっている。一時的に、1日5回訪問していたケースもあった。</p> <p>滞在時間は15分程度から、40分程度と様々で、朝8時前後、夕方6時前後の訪問依頼が多く集中している。</p> <p>随時対応は、体調不良や排泄に関連した連絡が多く、電話内容によって訪問者を決めている。体調面に関しては看護師が随時対応を行った。</p> |

コール内容は、認知症や不安感が強い性格の利用者様やご家族からの通報も多い。訪問しなくても電話対応で落ち着いてもらえるような声掛けに努めたが、基本的には訪問し様子を確認し、離れて生活をしている家族の安心に繋がられるようにした。

③ R4年度の相談等

ケアマネジャーから、「認知症で独居の方に対しての安否確認の工夫について」、「排泄支援等で、どのような時間にどのように介入していくのが良いか」などの方法についての相談があった。

また、病院の連携室から、「定期巡回の仕組みについて」確認や相談があった。

④ 事業所内の取り組み

訪問依頼時や初回の相談時から利用者の全体像の把握に努めている。

また、開始時にはリハビリスタッフによる身体評価を実施し、必要に応じて介護職員やご家族にポジショニング等の指導を行っている。

今後の課題は、職員が利用者の状況に応じて個別的ケアの対応ができるよう、定期的なカンファレンスの実施や、事業所内の研修会を通して職員のスキルアップに努めていきたい。

また、地域密着型サービスであることを踏まえ、地域に必要なインフォーマルサービスを提案できるよう地域課題に取り組んでいきたい。

質問・意見等

(意見)

開所時に移行したケースの中では、訪問看護と訪問介護に分かれていた方が滞在時間も長くその方には向いていたかもしれない状況もあった。開所時という慌ただしい中しっかりと利用者に向き合ってもらい動きが良かったと思う。

また、訪問件数からも読み取れるが、利用者が望む形で看取りが出来たのではないかと考えた。

(質問)

介護職が看取りを行う中、看護師が連携をとる上で気を付けていたことはあるか。

(応答)

訪問時の様子をタイムリーに意見交換するなど、職員間のコミュニケーションを大切にしました。看護職がターミナル期の対応について、介護職員へ話をするように心がけ、不安につながらないように心掛けた。

議事 2.) 自己評価の説明と質疑応答

自己評価の説明

半年間の反省として、地域密着としての街づくりに貢献できなかった。

今後は認知症カフェの早期運営も考えている。

(質問)

認知症カフェではどのようなことを行うのか？

(応答)

本人や介護している家族の相談、同じ立場の方々の交流から始めていきたいと思っている。

自己評価 項目 32 街づくりの取り組みについて。

(意見・質問)

独居だが、認知症があり。夜中元気になり、施設に入れたい人がいる。その人たちに対して、定期巡回や地域包括支援センターの職員、民生委員が声をかけるなどの仕組みを確立していくことも大切だと思う。事例報告を含めて伝える機会が必要なのではないか。

(甲斐氏地域包括支援センターより応答)

甲斐市においても、様々な研修会を予定しており考えていきたいと思う。

自己評価 項目 29 積極的な広報周知について。

(質疑等)

積極的に広報活動は出来ている感じがしたが、「できていない」と評価しているのはなぜか。

(応答)

実際、広報活動としては、ホームページや病院、居宅にパンフレットを配布しながら、サービスの周知をしてきたが、地域住民への発信が出来ていないため自己評価は「できていない」とした。

自己評価 12 番 介護看護の両方からのアセスメントが提案されている。について。

(質問)

両者のアセスメントでの気付き合いがあったら答えてほしい。

(応答)

初回訪問でアセスメントをしているが、例えば、糖尿病の利用者様では食事面が病気と関連するなか、食事内容をどのようにしていくと効果的か、看護師と連携を取る中で気付くことが多かった事例など情報を共有していく大切さを感じている。

(意見)

利用者の毎日の体調に合わせてサービスの選択をしていけることが定期巡回の良い所。具体例の蓄積をしていくことで、対応の幅も広がると思う。

自己評価 6 番マンパワーについて。

(質疑等)

利用者が増えてきたらどうするか。

| | |
|------|---|
| | <p>(応答)</p> <p>甲斐市で1か所しかない定期巡回サービスであり、受け入れの限界は作らずに、職員を増やす形で対応していく。職員の質を高めながら様々な利用者に対応していけるようにしたい。</p> <p>議事 3.) その他</p> <p>(意見)</p> <p>自治会内で孤独死が続けて出た。認知症かは定かではないが、世間の付き合いをしなくなったことによりそのような事例が増えたと思う。自分も母親の介護が大変だった経験がある。その時はケアマネジャーの存在に助けられたが、自治会の中でケアマネジャーに相談をすることが難しい家族もいる。病院や施設に繋がられない人たちを救うアドバイスをもらいたい。ぜひ、地域で家族の話をしてもらいたい。実際のサービスの様子が分かると安心だと思う。</p> <p>(意見)</p> <p>父はあさがお定期巡回サービスを利用していたが、先日亡くなった。最期まで対応してもらって感謝しかない。父も父らしく、家族も家族らしい生活ができ家族みんなをケアしてもらった。誰が来ても素晴らしい対応で、評価は「出来ている」ではなく「すごくできている」という丸を付けたいくらいだ。これからの医療というのは、その人らしい生活をどうしていくかだと思う。我が家のように利用している家族が定期巡回の素晴らしさを伝えていくことで、地域へ伝わっていくと思う。</p> <p>(応答)</p> <p>地域には様々なケースがあると思う。問題が埋もれてしまうことがないように、対応していくことが必要だと考える。</p> <p>(意見)</p> <p>病院も行きたくない。家からも出たくない。という人が、1つのきっかけになるのであれば定期巡回に繋げていくことで別のサービスが開けたりしていくのではないかな。</p> <p>(応答)</p> <p>困った時は、甲斐市地域包括支援センターとの連携も大事になってくると思う。</p> |
| 決議事項 | |
| 課題事項 | |
| 備考 | <p>次回予定：R5年10月頃</p> |